▲カブトガニの脱皮殻。まさにエイリアン？

よく似たしくみの足をもつ三葉虫は、カブトガニと同じようにトゲだらけの脚の付け根を上手に使って、前のほうの口へと、エサを送りこんだと考えられています。現在、生きている動物たちの動きや生活の中に、はるか昔に滅びさった動物の生きざまを探る手がかりがあるのです。

カブトガニが、はいまわったり、泳いだり、エサに覆いかぶさってガツガツと食べる様子は、化石を学ぶということが、書物や頭の中の世界だけではけっして果たされないことを、気付かせてくれます。そして、すべての海がつながっているように、学ぶということに分野の壁はないのだということを、あらためて教えられます。

ぬか漬けの盛り合わせはいかが？

リレー連載「チャレンジ！～海辺の館の新展開～」では、「ウナギ屋のぬか漬け」をテーマとして、生命の海科学館・蒲郡市博物館・竹島水族館がそれぞれ本業（ウナギ）の傍ら、あたためている新しい試みや工夫（ぬか漬け）について、皆さんにお伝えしてきました。

最終回では、もう一歩踏み込んで、ぬか漬けの盛り合わせ、各館のコラボレーション（共同制作）の試みについて少しだけご紹介します。

一昨年の夏には、「しらべてみよう！化石のさかな、生きたさかな」と題して、竹島水族館と生命の海科学館の合同企画が開催されました。参加者はまず生命の海科学館で、展示室の床にしゃがみこんでのお絵描きという、普段だったら絶対に怒られそうなことをして楽しみました。スケッチを通して、同じ展示室にある2億年以上前の魚の化石とおよそ4千万年前の魚の化石とを見比べ、からだのしくみの進化について学んだのです。そして、後半は水族館に移動し、魚のヒレはどう動くのか、すみかによってからだの造りがどう変わるのか、などの説明を聞きながら、生きた魚を観察しました。

その他、生命の海科学館の教育普及企画「夜の科学館をさんぽ」でも、水族館の職員による深海生物の話と科学館のスタッフによる深海の石の説明、水族館職員による三河湾の魚の話と科学館スタッフによる5億年前の磯の生物の説明など、折々にコラボレーションを行っています。

また、同じく一昨年の冬には、蒲郡市博物館と生命の海科学館の合同企画で、「キャンドルづくり」が開催されました。明かりというキーワードを中心にして、歴史と科学がつながったのです。

地球は、はるか40億年前から海をたたえ続け、海は絶え間なく進化し続ける生命を育んできました。海で生まれた生命の一員であるヒトは、やがて文明を生み出し、科学を発明しました。海について、そこで生きる生物について、またヒトと地球のかかわりの歴史について学ぼうとするとき、すべての事柄は、奥の深いところで結びついているのです。

蒲郡には、それぞれ異なる役割を持つ科学館、博物館、水族館があります。学びの場という視点で見たとき、それらすべてがつながっているのです。市民の皆さんが、それぞれの「ぬか漬け」やその盛り合わせをうまくツマミ食いしながら、オリジナルな学びの楽しさやスタイルを発見してくだされば、幸いです。

生命の海科学館
学芸員　山中　敦子

★ミュージアム・ミニコンサート★

生命の海科学館の教育普及企画「夜の科学館をさんぽ」の開催前に行っている、恒例のミニコンサートです。いん石や化石の眠る夜の科学館で、生演奏によるミュージック・コンサートを楽しみませんか？

とき　3月20日（祝）午後7時～7時30分

ところ　蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館

参加無料、申し込みは不要です。どうぞお誘いあわせの上、お気軽にお立ち寄りください。

※「夜の科学館をさんぽ」は、奇数月の第3土曜日、午後7時30分～8時30分の開催です。こちらは定員があるため、事前の申し込みが必要です。まずは生命の海科学館までお問い合わせください。

生命の海科学館 ☎66◆1717　FAX66◆1817　E-mail：info@nrc.gamagori.aichi.jp